

# 中野区放課後デイサービスセンターみずいろ支援方針

## 【スローガン】

### 「子どもの未来を共に創る、安心と信頼の居場所」

私たちは、子どもたちが安心して自分を表現できる環境を提供しながら、彼らの未来を共に支えていきます。信頼関係を大切に、自己肯定感や社会性を育む場を提供します。

## 【ポリシー】

### 1. 受容と信頼関係の構築

子どものありのままを受け入れ、信頼関係を育み、安心できる居場所を提供すること

### 2. 社会性と感情の発達

遊びや関わりを通じ、人への興味関心や感情の調整を身につけ、思いやりの心を育むこと

### 3. 自主性と意思決定の支援

子ども自身が「やりたいこと」を選び、考え、自己決定できる環境を整えること

### 4. 創造性と自己肯定感の育成

自由な創造や表現の喜びを知り、成功体験を重ねることで自己肯定感を育むこと。

### 5. 成長の共感と職員育成

子どもの成長や「できた」を共に喜び、子どもが安心できる職員を育成すること。

## 【支援のポイント】

**子どもの特性に応じた支援:** 各子どもが持つ能力や課題は異なるため、個々の発達段階や特性に応じた支援が重要です。支援計画は、子ども一人ひとりに合わせて丁寧にアセスメントし作成されなければなりません。

**全体的な発達のサポート:** 5領域は相互に関連しています。それぞれの領域がバランスよく支援を行い、包括的なアプローチを取ることが必要です。

**多職種の協力:** 支援を行う際には、保護者、学校、相談支援など、さまざまな本人に関わりのある人が連携してチームを組み、子どもを支えることが求められます。多角的な視点から支援を行うことで、子どもに最適な支援が提供できます。

**子どもの主体性を尊重:** 子どもが自分の意思で選択し、行動できるように支援することが大切です。子ども自身が意思決定に参加することで、自信と自己肯定感が育まれます。

**効果的な支援の見直し:** 支援の効果を定期的に評価し、必要に応じて支援計画を見直します。評価は、子どもの成長や環境の変化に応じた柔軟な対応を可能にします。

**家庭や地域との連携:** 子どもが家庭や地域社会でも同様の支援を受けられるよう、保護者や地域との連携を深めます。

**心理的・物理的な安全性の確保:** 子どもたちが安心して活動できる環境を整えることが大切です。支援の場が子どもにとって安心できる場所であること大切です。

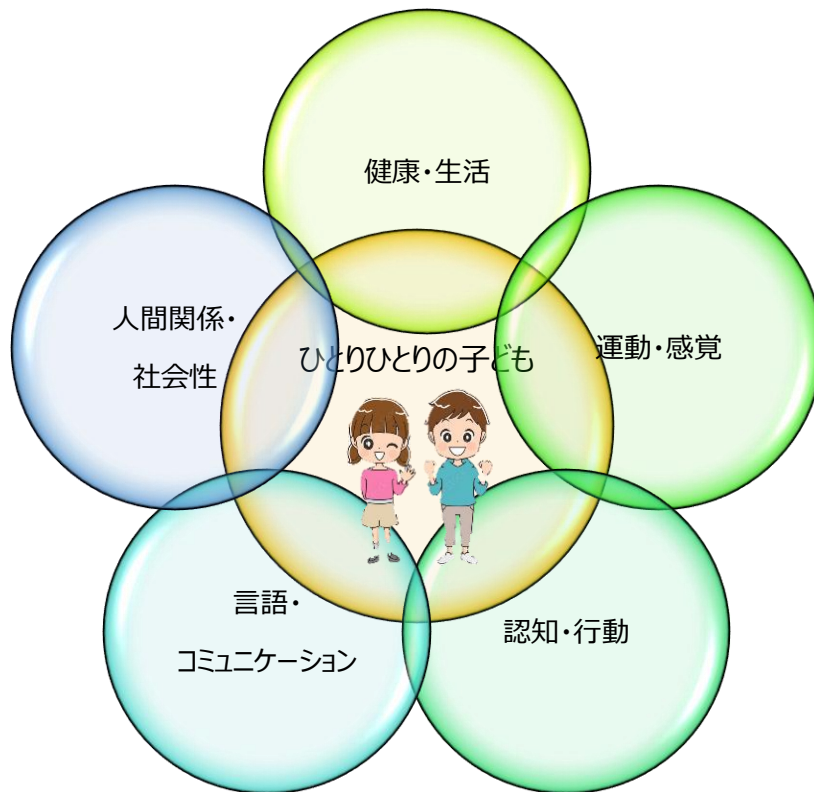
**長期的な視点での支援:** 子どもの将来を見据えた持続可能な支援を行います。将来、社会に出た後でも役立つスキルや習慣を身につけることを目指します。

## 【本人支援】

「本人支援」の大きな目標は、こどもが様々な遊びや、多様な体験活動を通じて生きる力を育むとともに、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするものです。支援の場面において、5領域の要素を取り入れながら、こどもの支援ニーズや、現在と当面の生活の状況等を踏まえて、こどもの育ち全体に必要な支援内容を組み立てます。また、事業所で行われる「本人支援」は、家庭や地域社会での生活に活かしていくために行われるものであり、学校やその他福祉サービスなど、本人を取り巻くすべての関係機関と連携を図りながら進めていくものです。そして障害のあるこどもが健やかに育っていくため、相互に関連を持ちながらこどもの育ちの環境を整えていくサポートをします。

## 「みずいろ」の5領域に合わせた支援

5領域の関係性は、それぞれ重なり合っており相互関係にあります。その視点等を踏まえ、アセスメントを行った上で、基本的な活動を複数組み合わせ、個々のこどもに応じて、オーダーメイドの支援を提供していきます。



### 【健康・生活】

子どもたちが健康的な生活習慣を身につけ、日常生活に必要なスキルを習得することを目指します。

- 食事(咀嚼、嚥下、道具の使い方)
- 衛生(更衣、身だしなみ、排泄)
- 生活リズム(季節に合った衣服の調節、室温の調節や換気、病気の予防や安全)

### 【運動・感覚】

日常生活で必要とする姿勢の保持や運動スキルを向上させることを目指します。粗大・微細運動や基本的な動作・道具の使用の習得を目指します。

- 粗大運動(全身を使った動きやバランスの取り方、ジャンプやランニング、ボール遊び)
- 微細運動(手先や指先の細かい動き、ボタン留め、折り紙、ビーズの紐通し、絵を描く)
- 感覚(視覚、聴覚、触覚、前庭覚(バランス)、固有覚(身体の位置や動きの感覚)過敏や鈍麻)

### 【認知・行動】

子どもたちの思考力や行動の調整能力を育成し、状況に応じた柔軟な思考・行動の促進、意思決定や問題解決へ導く支援を目指します。

## ○認知スキルの向上

(原因と結果の理解、状況判断、感情の理解、短期記憶と処理速度、注目の継続)

## ○行動の調整と適応力の育成

(見通しのあるスケジュール、計画的に物事を進める力、予期せぬ状況に適応する)

## ○社会的ルールや規範の理解

(ルールの視覚化、トークンなどの報酬、交通マナーの理解、相手の気持ちや距離感、マナーや法律)

### 【言語・コミュニケーション】

障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、各種の機器等を用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けることができるような支援を目指します。

○コミュニケーション手段の選択と活用(文字、イラスト、手話など本人に合わせた表出、ICTの活用)

○言語の表出と形成(名詞、動詞などの概念理解、2～3語文での会話)

○遊びを通じたコミュニケーション(一人遊びから連合遊び、協同遊びへ)

○相手の気持ちに立って考える(メタ認知、傾聴、声の大きさ、速さ)

### 【人間関係・社会性】

こどもが信頼感を持つことができるように、環境に対する安心感・信頼感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を目指します。感情の崩れや、不安になった際に、大人に相談することができることで、安心感や、自分の感情に折り合いをつけたりできるよう「安心の基地」の役割を果たしていきます。

○アタッチメントの形成と安定

○感情の理解と情緒のコントロール

○仲間意識と集団参加

### 【家族支援】

障害のあるこどもを育てる家族が安心して子育てを行うことができるよう、家族(きょうだいを含む。)と日頃から信頼関係を構築し、障害の特性に配慮し、丁寧な「家族支援」を行うことが大切です。こども本人の状況や家庭の状況等を踏まえ、子育てに困難さを感じているか、相談する人はいるか(孤立していないか)など、家族の困りごとに寄り添いながら、気持ちを受け止め、こども本人と保護者との相互の信頼関係を築いていきましょう。

### 【移行支援】

入学・進学・就職時等のライフステージの切り替えにおいての「移行支援」は、こどもを取り巻く環境が大きく変化することも踏まえ、支援の一貫性の観点から、より丁寧な支援が求められます。また、地域社会への参加・インクルージョンの考え方に立ち、障害のあるこどもが、可能な限り、地域で行われている多様な学習・体験・活動や居場所を享受し、その中で適切な支援を受けられるようにしていくことや、同年代のこどもをはじめとした地域における仲間づくりをするためのサポートをしましょう。

### 【地域支援・地域連携】

「地域支援・地域連携」を行うに当たっては、こどものライフステージに応じた切れ目のない支援(縦の連携)と関係者間のスムーズな連携の推進(横の連携)の両方(縦横連携)が重要です。こどもが通う学校や放課後児童クラブ等との情報連携や調整、こどもが利用する障害児相談支援事業所や障害福祉サービス事業所、他の障害児通所支援事業所との支援方法や環境調整等に関する相談援助、個別支援計画の作成又は見直しに関する会議の開催を積極的に行います。